

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	東邦プロジェクトA		
担当者(Instructors)	寺島 雅隆	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)			
<p>株式投資を実際にシミュレーションします。また、その状況を記事コンテンツで発信します。まずは、株取引の知識を学び、シミュレーションアプリを用いて、実データとの相関で利益を上げます。その模様の記事コンテンツアプリで発信し、収益を目指します。なお、株取引はシミュレーションのため、リスクはありません。</p>			

■ 授業形態・授業の方法 (Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	実際のシミュレーションによる収益の発表と記事コンテンツの発信。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	概要説明+株取引とは	株取引はどのようなことかを理解します。	<input type="checkbox"/>
第2回	「株たす」と「note」の説明	導入するアプリについて説明します。	<input type="checkbox"/>
第3回	株取引のやり方と記事の書き方	アプリの実際的使用方を理解します。	<input type="checkbox"/>
第4回	株取引の基本	株取引の手法を理解します。	<input type="checkbox"/>
第5回	ファンダメンタル分析	PER・ROEなども説明します。	<input type="checkbox"/>
第6回	テクニカル分析	ローソク足を中心に説明します。	<input type="checkbox"/>
第7回	cisとBNFの手法	200億円を稼ぐトレーダーの手法を説明します。	<input type="checkbox"/>
第8回	株取引と結果発表 1	実際の株取引の結果を発表します。	<input type="checkbox"/>
第9回	記事コンテンツ発信 1	記事コンテンツを発表し、収益を目指します。	<input type="checkbox"/>
第10回	株取引と結果発表 2	実際の株取引の結果を発表します。	<input type="checkbox"/>
第11回	記事コンテンツ発信 2	記事コンテンツを発表し、収益を目指します。	<input type="checkbox"/>
第12回	株取引と結果発表 3	実際の株取引の結果を発表します。	<input type="checkbox"/>
第13回	記事コンテンツ発信 3	記事コンテンツを発表し、収益を目指します。	<input type="checkbox"/>
第14回	総合収益発表	総合的な収益結果を発表します。	<input type="checkbox"/>
第15回	授業のまとめ	授業を振り返ります。	<input type="checkbox"/>

■ 授業時間外学習 (予習・復習) の内容 (Preparation/review details)	
<p>株取引時間内は逐次対応します。日々ニュースを中心に経済動向・企業動向の情報収集をします。授業後の復習として2時間程度を割り当て、授業の予習として2時間程度を割り当ててください。</p>	

■ 課題とフィードバックの方法 (Assignments/feedback)	
<p>株取引の収支結果を基にアドバイスします。また、記事コンテンツを通じて繋がります。</p>	

■ 授業の到達目標と評価基準 (Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2019全学共通DP3	取引結果を分析し、原因を掴み、修正していくことができる。

■ 成績評価 (Evaluation method)	
-----------------------------------	--

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

株取引の内容、記事コンテンツの内容、そして最終収益の結果で判断します。しかし、赤字であっても何を学んだのかが明確であれば考慮します。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	cis (2018) 『一人の力で日経平均を動かせる男の投資哲学』 KADOKAWA	
2		
3		
4		
5		